

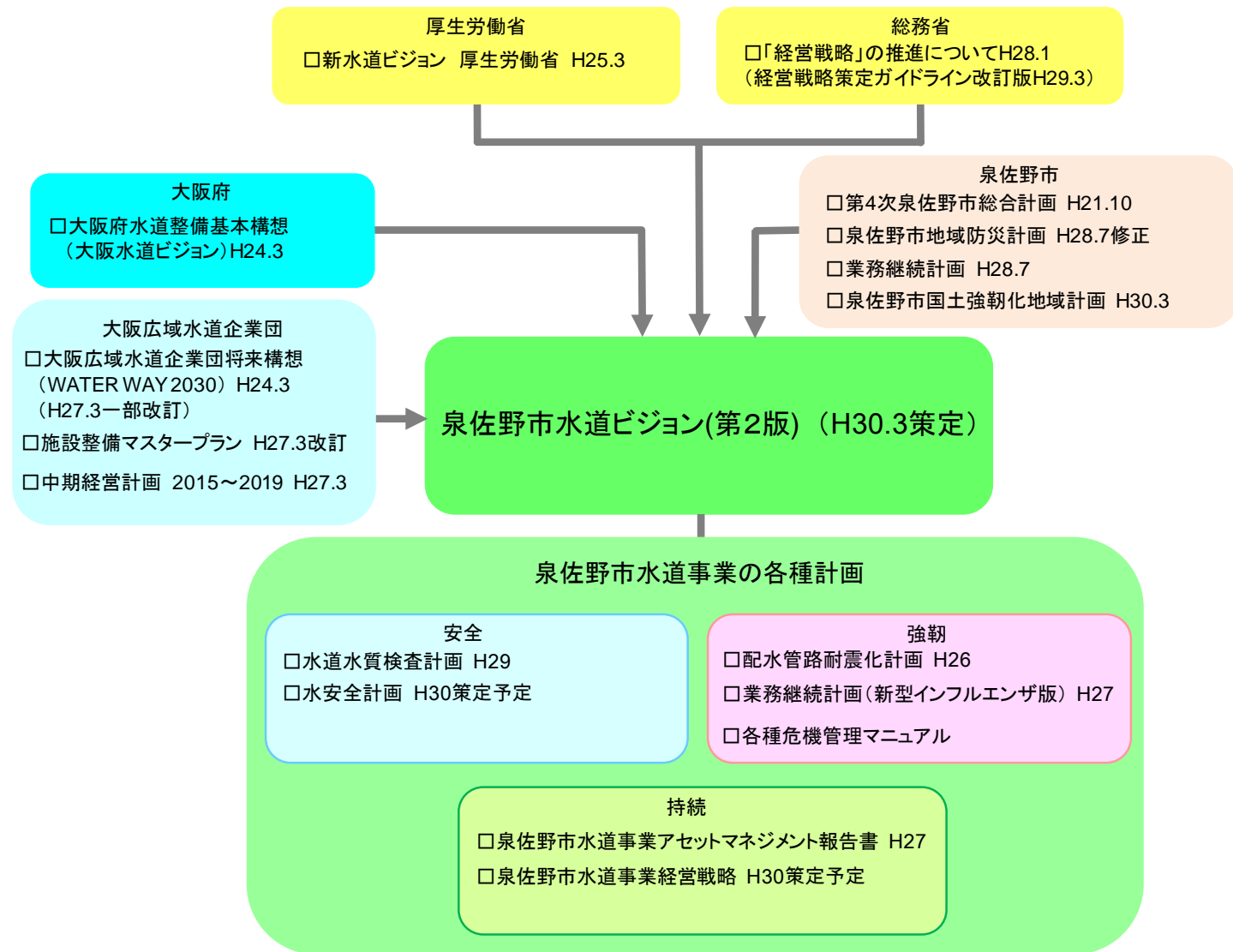
泉佐野市水道ビジョン（第2版）の概要版

1. 泉佐野市水道ビジョン（第2版）の策定にあたって

泉佐野市水道事業では、事業の現状や将来見通しなどを分析・評価した上で、事業の将来像や目標を設定し、それらを実現するために必要な施策等を取りまとめた「泉佐野市水道ビジョン」を2007（平成19）年3月に策定し、それに基づき、事業経営を進めてきました。

しかし、今後、本格的な人口減少社会の到来が予測されることや、2011（平成23）年3月に発災した東日本大震災では、水道施設にも甚大な被害が発生したことにより、水道施設の耐震化・強靱化の重要性が再認識され、全国の水道事業を取り巻く状況が大きく変化したことを踏まえて、国（厚生労働省）は2013（平成25）年3月に「新水道ビジョン」を策定しました。

このことを受け、安定かつ持続可能な事業運営を進めるための指針として、国の「新水道ビジョン」に基づき、「泉佐野市水道ビジョン」（第2版）を策定するものです。



泉佐野市水道ビジョン（第2版）の位置付け

計画期間：2018（平成30）年度～2027年度の10年

2. 現状と主な課題

泉佐野市水道事業の現状を分析し、主な課題を整理した結果は以下のとおりです。

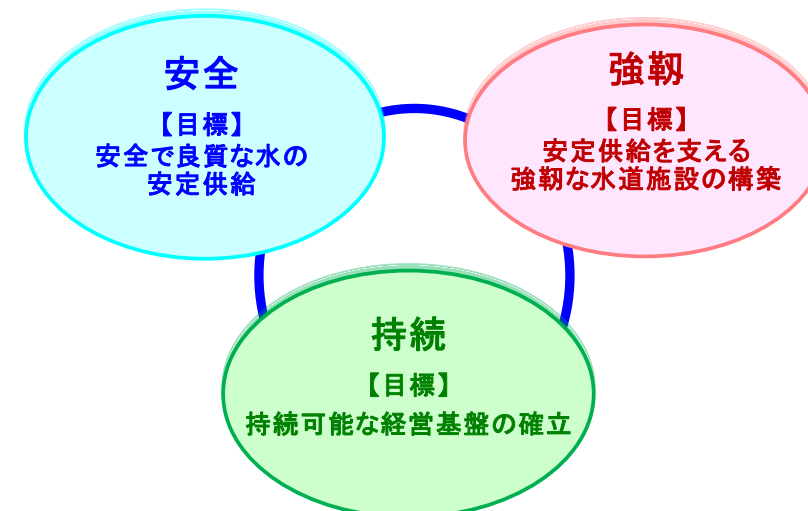
現状と主な課題のまとめ

区分	現状と主な課題（青字：長所、赤字：課題、[]は業務指標値(PI)等）
安全	高度浄水施設を整備し、供給水質は望ましい水準にありますが、安全な水をより確実にお届けするためには、以下の取組みの強化が必要です。 ■ 水源から給水栓に至るまでの水質事故等に対する水質管理の強化(水安全計画の策定等) ■ 直結給水の拡大及び鉛製給水管の更新
強靱	配水池の耐震化や停電対策等は一定の水準を確保していますが、大規模地震等の災害に備えて、安定した給水を確保するためには、以下の取組みの強化が必要です。 ■ 重要給水施設管路を中心とした管路や施設の耐震化 [重要給水施設配水管路の耐震管率57.9%] ■ 災害や事故の発生に備えて、停電対策の強化等の水供給機能の強化 ■ 応急給水体制、危機管理体制の強化
持続	必要な水道施設は整備され、業務委託化等により組織はスリム化し、職員数は減少していますが、将来にわたって水道事業を安定して経営していくためには、以下の取組みの強化が必要です。 ■ 今後の給水量の減少を踏まえた水道施設のダウンサイジング [最大稼働率59.3%] ■ 老朽化した設備や管路等の計画的更新 [法定耐用年数超過管路率23.8%] ■ 組織体制の最適化並びに広域連携の活用

3. 目指すべき方向

泉佐野市水道事業の理想像を「安全で良質な水を安定的に供給し、お客様に信頼される水道事業」とし、これを実現するため、「安全」、「強靱」、「持続」の観点から、以下に示す目標を設定します。

理想像：安全で良質な水を安定的に供給し、お客様に信頼される水道事業



泉佐野市水道事業の理想像・目標

泉佐野市水道事業の理想像・目標を実現するために取り組むべき施策体系は次のようになります。

施策体系

目標	施策	実現方策
安全	A-1 水質管理の強化	<input type="checkbox"/> 「水安全計画」の策定 <input type="checkbox"/> 洗管計画の策定・実施 <input type="checkbox"/> 給水水質モニターの設置検討
	A-2 給水装置管理の充実	<input type="checkbox"/> 直結給水の拡大 <input type="checkbox"/> 鉛製給水管の更新
	A-3 水道水質情報の発信	<input type="checkbox"/> 水道水の水質に関する広報の充実 <input type="checkbox"/> 水道水の安全性等のPR
強靱	B-1 水道施設の耐震化	<input type="checkbox"/> 施設の耐震化 <input type="checkbox"/> 管路の耐震化
	B-2 水供給機能の強化	<input type="checkbox"/> 安定水源の維持 <input type="checkbox"/> 停電対策の強化 <input type="checkbox"/> 配水ブロックシステムの検討 <input type="checkbox"/> 監視機能の充実
	B-3 応急給水体制等の強化	<input type="checkbox"/> 応急給水体制の拡充 <input type="checkbox"/> 応急復旧体制の拡充
	B-4 危機管理体制の強化	<input type="checkbox"/> 危機管理マニュアルの充実 <input type="checkbox"/> 危機管理体制の拡充 <input type="checkbox"/> 保安設備の強化
	B-5 お客様と連携した災害対応の強化	<input type="checkbox"/> 飲料水等の備蓄 <input type="checkbox"/> 給水訓練の継続実施
持続	C-1 水道施設の再編成	<input type="checkbox"/> 現有施設の有効利用と再編成
	C-2 水道施設の計画的・効率的な更新	<input type="checkbox"/> 「アセットマネジメント報告書」等に基づく計画的更新 <input type="checkbox"/> 維持管理の充実と施設の長寿命化 <input type="checkbox"/> 更新費用に対応した収支計画等の検討
	C-3 組織体制の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な職員体制の検討 <input type="checkbox"/> 水道技術の継承
	C-4 お客様サービスの向上	<input type="checkbox"/> 情報発信とお客様ニーズの把握 <input type="checkbox"/> 水道施設の見学受け入れ <input type="checkbox"/> サービスの向上 <input type="checkbox"/> 指定給水装置工事業者への指導強化
	C-5 環境対策	<input type="checkbox"/> 漏水防止対策の充実 <input type="checkbox"/> 省エネルギー型設備の導入 <input type="checkbox"/> 浄水発生土・建設副産物の有効活用

4.目標実現に向けた主な施策

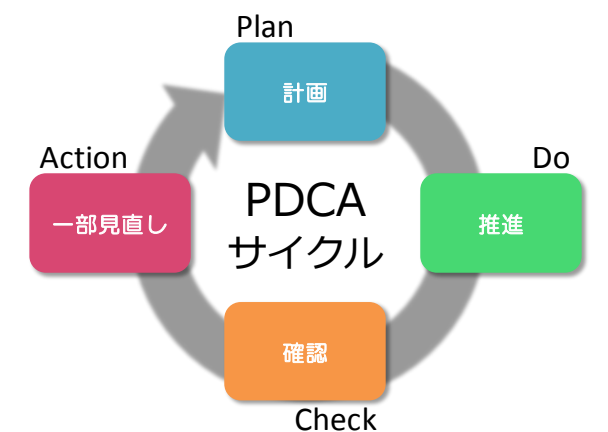
目標実現に向けた主な施策は、次のようになります。

目標	主な施策	施策の目的・内容等	スケジュール等	
			前期 (2018~2022)	後期 (2023~2027)
安全	水質管理の強化	● 水道水の安全性をより一層高めるために、「水安全計画」を策定。	計画策定	運用
	給水装置の管理の充実	● 指定給水装置工事業者と連携しながら、直結給水方式を拡大。 ● 配水管の更新工事等に合わせて、鉛製給水管を更新。		継続実施
強靱	水道施設の耐震化	● 日根野中区配水池3池のうち1池を廃止し、全配水池を耐震化。		検討 → 実施
		● 日根野浄水場内の浄水施設等を耐震化。	耐震二次診断	計画策定 → 実施
	● 重要給水施設配水管路について、優先的に更新・耐震化		継続実施	
	● 耐震性が低い塩化ビニル管及び铸铁管等を、計画的に更新・耐震化		継続実施	
強靱	水供給機能の強化／ 応急給水体制の強化／ 危機管理体制の強化	● 日根野浄水場等の自家発電設備の機能維持。		継続運用
		● 日根野浄水場において、受水圧を利用した直接受水が可能となるよう、場内管路等を整備。	実施	運用
		● 応急給水体制の拡充を図るため、関係機関との広域連携や民間事業者との連携を推進。		検討・必要に応じて見直し
		● 各種危機管理マニュアルを適宜見直し。		必要に応じて見直し・運用
持続	水道施設の再編成／ 計画的・効率的な更新	● 稼働率が低下している日根野低区配水池の有効利用を図るため、中区配水池の3池のうち、1池を廃止。		検討 → 実施
		● アセットマネジメント報告書に基づき、水道施設を計画的に更新。		継続実施
	● 施設等は維持管理を適切に行い長寿命化		継続実施	
	● 「泉佐野市水道事業経営戦略」を策定。	計画策定	運用	
持続	組織体制の最適化	● 業務委託化等による官民連携の推進や、企業団や近隣水道事業者との広域連携を考慮して、最適な職員体制を検討。		検討・実施
		● 職員再任用制度の活用や、技術継承を考慮したOJT等の研修の充実。		検討・実施
持続	環境対策	● 漏水調査や老朽管の計画的更新。		継続実施
		● ポンプの更新の際は省エネルギー型を採用し、浄水処理過程で発生する汚泥等は今後も有効活用。		継続実施

5.施策推進手法

◆施策推進手法

- 各施策については、PDCA サイクルに基づき、着実に推進します。
- これらの経過及び結果については、ホームページ等を通じて、お客様等に、情報提供し、ご意見等を可能な限りフィードバックします。
- 「泉佐野市水道ビジョン」(第2版)は、必要に応じて、適宜適切に見直します。



各施策の推進手法